

○議長（中村 昭人議員） 次に、永友美智子議員に発言を許します。

○議員（永友 美智子議員） こんにちは。本日は、お忙しい中、議会傍聴に来ていただきましてありがとうございます。今日で2年目に入りました議員2年目の永友美智子と申します。よろしく願いいたします。

では、一般質問通告書に基づき質問させていただきます。

昨年議会から町民の皆様の声をお聞きするためにもってことで、各いろんな団体との意見交換会を行っております。その意見交換会の中である意見ございまして、まずそこから質問させていただきます。

電車で川南に来られた方が、タクシーやバスなどの交通手段がなく困っている。この方は、昨年すごく暑い真夏に川南の駅から宮崎病院まで徒歩で行かれたそうです。そういう実情を、正直言いまして、私たち、電車で、あんまりっていうか、全く乗らないものですから、そんなに逼迫してらっしゃるか、タクシーがないんだってことに正直驚きました。

今回は、この現況につきまして、町がどのように認識され、対策をお考えか、お聞きしたいと思います。

以下の質問につきましては、質問席で行いたいと思います。

○町長（宮崎 吉敏君） 永友議員の質問にお答えいたします。

現在の公共交通手段には課題があり、特にタクシーの利用制限やオンデマンドバスの事前登録、予約制が、電車で来られた方の移動を困難にしていると認識しています。

なお、詳細については担当課長に説明させます。

○まちづくり課長（稲田 隆志君） ただいまの御質問にお答えいたします。

タクシーについては、運行台数に限りがあるため、待ち時間が長くなる場合があります。また、時期によっては利用をお断りする可能性がございます。日曜日は営業しておらず、軽トラック市や病院へのお見舞いなどの際に利用できないこともございます。

バスについては、シャトルバスやトロントロンバスの定期路線、オンデマンド運行がございますが、オンデマンド運行は利用者登録と前運行日までの事前予約が必要です。そのため、急な用事での利用は難しいのが現状です。

対策についてですが、まずは、深夜や日曜日に交通手段を確保するための対策を講じます。これは、タクシー会社のあい交通が営業していない時間帯の移動を支援するものです。具体的には、高鍋町などからの迎車を伴うタクシー運行について、迎車回送料金相当分の運行経費を補助するタクシー運行支援補助金を令和8年度当初予算に計上しています。

以上でございます。

○議員（永友 美智子議員） ありがとうございます。今のお答えからすると、あくまであい交通さんが運行していない時間帯、夜の時間帯と日曜日には、このタクシー運行

支援等の補助事業が使えるっていうふうでよろしいでしょうか。

○まちづくり課長（稲田 隆志君） 議員のおっしゃるとおりの理解で結構でございます。間違いございません。

以上です。

○議員（永友 美智子議員） 今回、私が質問させていただいたのは、駅で、昼間、動けなくなって、バスとかタクシーがなかったという状況なんですけれども、日曜とこの夜間、それ以外の平日の昼間、またそのようなことが起こる状況があるのではないかというふうに感じるんですが。

実際、駅のところにタクシー会社は2社ほど名前が書いてあって、そして電話番号書いてあるんですけれども、そこであい交通さんにお電話した際に、いやー、あと1時間待ちです、2時間待ちですとかいうお答えが返ってきた場合っていうのは、運行時間帯ではありますが、運行をもうしていないとみなされて、夜間そのタクシー運行支援事業となるもので、平日ではありますが、昼間ではありますが、そういうのが使えるっていうようなことはできないんでしょうか。

○まちづくり課長（稲田 隆志君） 現状では、あい交通さんの経営といたしますか、タクシー事業者さんの経営を圧迫するような事業は、町として取り組むべきではないという判断の下、今回、あい交通さんが営業していない時間帯をまず町として対策を打つということで、今回、令和8年度の予算に計上させていただいたところです。

以上です。

○議員（永友 美智子議員） すごくそれ分かるんですけれども、やっぱりそこで1時間、電車で来られた方、実質電車で来られるっていうのは町内の方ではないと思うんです、状況を御存じだと思うので。よそから来られる、そして、もしちょっと病院に行きたい、観光に行きたいとかでちょっと来られるっていう方たちに対して、電話しました、一、二時間ちょっと待ちます、待ってくださいとか言われた際の対応がなかなか取れないっていうのは、ちょっと大きいのかなっていうふうに私的には感じております。

今後、やっぱり観光を重視するとか、人に来てほしいとか言われるのであれば、そこらあたりは、再度、もうすごくいいんです、運行支援等の補助事業っていうのはすごくありがたいんですけれども、そこらあたりはもうちょっと煮詰めていただければと思います。よろしくをお願いします。

以上です。

○まちづくり課長（稲田 隆志君） 町といたしましては、バス事業者、タクシー事業者の経営を圧迫する施策は基本的には取り入れるべきではないという考えは持っております。燃料高騰による交通事業者の収益悪化であるとか、慢性的な運転手不足、また利用者の利便性、町の財政状況など総合的に判断いたしまして、引き続き検討させていただきます。

以上です。

○議員（永友 美智子議員） ありがとうございます。また、今後の課題だと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

続きまして、今のタクシーに続いてなんですけれども、現在、川南町内のタクシー会社は、先ほどからお話にありますように、あい交通さんのみです。そして、2から3台の台数で動いているっていうふうに聞いております。

そこで、昨年9月の議会の一般質問におきまして、同僚議員から公共ライドシェアの提案がなされたと思うんですけれども、そのときに、現時点で実現可能性が高い。国の制度見直しを注視していきますっていうようなお答えだったと思ひますが。

現在、国、そして町の現状っていうのを教えていただけますか。

○まちづくり課長（稲田 隆志君） まず、誤解を避けるために御説明させていただきます。

ライドシェアには、日本版ライドシェアと公共ライドシェアの2つの異なる形態があります。タクシー事業者管理の下で実施する日本版ライドシェアは、採算性の問題から川南町でタクシー事業者が取り組む可能性は低い。その一方、公共ライドシェアについては、様々な方法がありますが、その中で、タクシー事業者と市町村が共同運営する方法が、現時点では川南町で実現する可能性が最も高い。公共ライドシェアの実現可能性が高いというわけではなくて、もし公共ライドシェアをするのであれば、タクシー事業者と市町村が共同運営する方法が、現時点で実現可能性が高いと、9月の議会で申し上げたところです。

現状についてですが、国においては、継続してライドシェアの制度見直しを議論しているところです。川南町においては、これまで有限会社あい交通、九州運輸局宮崎運輸支局、宮崎県タクシー協会、三和交通株式会社と協議を行ってまいりました。

タクシー事業者の現状はどのようになっているのか、川南町が公共ライドシェアの登録を受けて実施する場合、どのように運用していくのか、それに対する補助事業はあるのか、登録を受けるために要する期間はどれくらいか、タクシーが不足している現状に対して、宮崎県タクシー協会の協力をどのような形で得られるのか、夜間、日曜日のタクシー不足に対する対応策としてどのような方法が考えられるのかなど協議を重ねまして、現在も検討を続けているところでございます。

先ほど申し上げたとおり、タクシー運行支援補助金を令和8年度当初予算に計上しております。繰り返しになりますが、町の財政状況を含め、状況に応じて総合的に判断し、町民の皆様にご不便をおかけしないよう、柔軟な対応をしていきたいと考えております。

以上です。

○議員（永友 美智子議員） ありがとうございます。このタクシー事業者と市町村が

共同運営する公共ライドシェアなるもの、ちょっと調べてみたんですけど、全国で割とこれ導入されてるとこ多いみたいで、やっぱりみんなドライバー不足とか、なかなか、人口減少とかいろんなところがあるんだなっていうふうに感じております。

ただ、やはり、さらに1町だけでなくって広域連携を組まれている地区もあるってことで、そこ辺の情報等を取りながら、川南町への早急な導入っていうところを考えていただければと思います。どうかよろしくお願いします。

○まちづくり課長（稲田 隆志君） 広域的な部分ということになりますが、あい交通さんが都農町ということで、都農町と川南町では情報の共有は常にしている状況です。そういった、総合的に判断して、例えば広域的にライドシェアの実施をするとか、そういった部分も含めまして、総合的に今後判断してまいりたいと思います。

以上です。

○議員（永友 美智子議員） ありがとうございます。どうかよろしくお願ひいたします。

続きまして、やはり、これ移動手段の第2弾なんですけれども、現在、トロントロンドームと川南駅、あそこをつなぐシャトルバスが、ドーム発が2便、そして川南町の駅発が7便、計9便が運行しています。3月14日から電車の運行時間がちょっと変わるってことで、今度7便になるというふうに聞いておりますが。これは、あくまで学生の通学時間帯に合わせたっていうシャトルバスなんですけど、学生以外のシャトルバスの利用者が少ないのかなっていうふうに思っているんですけども、現在の学生以外の利用状況と、あとシャトルバスの周知方法を教えていただけますか。

○まちづくり課長（稲田 隆志君） シャトルバスの利用数については、大人と高校生以下に区分して集計をしております。令和6年度の実績では、大人が353人、高校生以下が9,585人でした。大人の利用人数を運行日数で割りますと、1日平均1.21人の方が利用されている計算になります。今年度も同様の推移が見られております。

シャトルバスは、高校生の送迎車両による川南駅前の混雑緩和を目的として運行しているものですので、御理解をお願いいたします。

時刻表などの情報につきましては、町のホームページに掲載をしております。必要な情報をいつでも御確認いただけるよう努めております。また、時刻表の変更がある場合には、お知らせかわみなみやSNS等でも御案内をしているところです。

以上です。

○議員（永友 美智子議員） ありがとうございます。

先日、お知らせかわみなみで参りました運行表を頂きました。その運行表見たときに、私自身、シャトルバスが朝出てるちゅうのは知ってたんですけど、帰りにあれだけ出てるちゅうのは、正直今回調べたことで初めて知りました。お知らせかわみなみを見たとき、主人が言った一言が、何これって。だから、興味がある人っていうのは、ぱっと目につ

くし分かるんですけども、実際興味がない、それを使わない方っていうのは、何だろうというぐらいの感覚なんだなというのを、私もつくづく感じております。

実際、やっぱり時刻表、シャトルバスが必要な方たちは駅を利用される方だと思うんですが、それで、この前行って、シャトルバスの時間帯が壁の横側にあって、私もちょっと見つけるのにああとってお話しさしていただいて、正面っていいですか、駅から出てくるところの正面に貼っていただきました。ありがとうございました。

ただ、A4の紙がぱっと貼ってあるだけなものですから、見づらい、見えないっていうのがありまして、これをPRしようって、乗ってもらおうとかもし考えていらっしゃるのであれば、もうちょっと目立つような形でやっていただけるとありがたいかなと思います。

このシャトルバスに関しては、年間大体900万近くかかっているというふうに、この前ちょっと調べて、私自身もびっくりしたんですけども。やっぱりそれだけのお金がかかっているのであれば、なるべく皆さんが知るような形、そして使っていただくような形に持っていければいいのかなっていうふうに感じておりますので、またよろしく願いしたいと思います。

続きまして、最後の質問に行かせていただきます。よろしいでしょうか。

これは前から話してるんですけども、現在、オンデマンドバスっていうのは、地域と拠点、それを結ぶって形で町内です。町内だけの運行です。それは、川南に限らずどこでもなんです。このオンデマンドバスの利用者が、町外、近場でいいんですけども、都農であり、高鍋であり、そちらに移動する際、定期バスへのスムーズな乗り継ぎを行うための運行ラインの見直しは可能かなと思ひまして。

実際、町外に出るに当たって、タクシー使うとやっぱり相当な金額がかかります。往復で行くとやっぱり5,000円が、川南のこれは真ん中辺から動くとしたときにかかるものですから、それをうまい具合にオンデマンドバス系と、あと地域のコミュニティバスが出てますので、それをつなげればと思うんですけども、いかがでしょうか。

○まちづくり課長（稲田 隆志君） 町民の皆様の利便性向上に向けまして、オンデマンドバスから高鍋町と都農町を結ぶ広域的コミュニティバスへの乗り継ぎに関しまして、バス停の位置、そちらを改善できないかどうか、できる場所があるかどうか、再度確認してまいります。

ただし、バス停の位置変更については、道路管理者等との協議や手続などが必要となりますが、スムーズな乗り継ぎが実現できるよう、関係機関と連携し調整を進めてまいりたいと思っております。

以上です。

○議員（永友 美智子議員） その辺のところ、簡単にいくことではないと思うんですけども、よろしく願いしたいと思ひます。

それと、実際、時刻表なんですけれども、川南と高鍋、都農、この3つを結ぶコミュニティバスっていうのがあるってことを、私、本当最近知りました。それを使わない方、特にバスを見ないもんですから、ちょっと山手なもんで、そういう方ってやっぱり知らないのかなと思ひまして、身近な方に聞くとやっぱり知らないっていう状況でした。

ですから、私たちがこれから免許証返納した段階でそれを知ることになる、使うことになると思うんですが。まず、今、オンデマンドバスに乗ってらっしゃる方、使ってらっしゃる方たちに、こういう形のコミュニティバスが通ってるんですよって、これだったら、どちらの病院、高鍋の病院、都農とかいう病院に行かれるのであれば、この時間帯にこのバス停に行けば乗れますよみたいな感じの、そういう案内表みたいなのが作れますでしょうか。

○まちづくり課長（稲田 隆志君） まず、オンデマンドバス等を利用される方に対して、そのままの乗り継ぎについて御案内ということでしたが、オンデマンドバスの運行してます三和交通株式会社さんと、その点については協議をさせていただいて、可能な限りで丁寧な説明ができるように検討してまいりたいと思っております。

以上です。

○議員（永友 美智子議員） ありがとうございます。三、四年前かな、各自治公民館に、地域の活性化を図るためについてことで、いろんな活動を各自治公民館ごとにしたと思うんですけれども。それで、私たちの多賀、私、多賀にいますが、多賀においては定期的なお買物バスっていうのを運行させました。それで皆さんにまずオンデマンドバスに慣れていただくためにやったんですけれども、実際それでこんなに簡単にやれるんだ、いいな、楽しいなっていう感じになりまして、それである十数名の方たちが会員登録をしていただきまして、その実験、試験的なことが終わった後、オンデマンドバスを利用させていただくっていうような形になったんですが。

やっぱり、何でもなんですけど、はいこれやってください、どうぞって出しても、なかなか、若い方ならすすっと動けると思うんですけれども、実質オンデマンドバスとかを利用されてる方は割と高齢な方だと思いますので、丁寧な、こういう感じですよっていうような形で、子供に教えるような感じで、事細やかにやっていただければと思います。

やはり、今から先、私たちが利用することになりますので、自分が年を取っても困らないっていう形の運行っていうのをすごく考えていきたいと思っておりますので、どうかよろしくをお願いします。

以上です。

本当に今日はありがとうございました。失礼します。